

## 資料を読み解き、自らの考えを深める子どもの育成をめざして —言語化の活動を取り入れた小学校5年社会科の実践を通して—

山下 博典

社会科は、国際化・情報化・価値観の多様化など、社会の急激な変化に自ら対応できる能力や態度を育成していく上で重要な役割を担っているが、諸調査から社会科の学力実態における課題が指摘されている。本研究では、小学校5年の社会科学習に資料を言語化する活動を取り入れ、考えるプロセスや活動を重視した社会科の具体的なプログラムを作成し、実践授業研究を行った。また、資料から読み取った個々の事象の関連を整理し、筋道立てた思考を促すためにThinking Chartを開発し、実践授業に取り入れた。そこで、研究の内容と明らかになった成果、改善点などを報告する。

### 第1章 社会科学習の現状と課題

#### 第1節 子どもたちの学力実態と見えてきた課題

2003年に国立教育政策研究所・教育課程研究センターが実施した『平成15年度小・中学校教育課程実施状況調査』の調査結果を見ると、「社会的事象についての知識・理解」と「社会的な思考・判断」の観点の通過率が低いこと、「社会科が好きだ」という意識をもつ子どもの割合の低さなど、社会科における課題が明らかになった。

また、平成17年度京都市学力定着調査（小学校社会）では、資料から読み取ったことを関連づけて考えを深めるといった指導を充実することが必要である、などの課題が指摘されている。

#### 第2節 社会科学習において大切な視点

資料から読み取った情報を比較、関連づけ、総合的に見ることにより、表面には見えない社会的事象の背景や本質となりうる知識を生み出すこと、つまり資料を「読み解く」ことが、自ら考えを深めることに必要である、と考える。資料から読み取った情報を結びつけたり比較したりする際、資料から読み取った情報を文字にして書き表すことにより、イメージ上での思考の操作に比べ、事象同士をつなげ合わせたり比較したりする操作を容易に行うことができ、より深い思考をすることができると考えた。

### 第2章 研究の概要

#### 第1節 先行研究から見えること

考える活動やプロセスを重視した社会科学習を目指した各先行研究の中から、特徴あるものを数例取りあげて分析した。すると、資料を読み解き、自ら考えを深める社会科学習には、資料からの丹念な事実の読み取りを促す手立てや、事象間

の関連づけを促す手立て、知識を再構成し、考えを深めるための手立てなどが必要であると分かった。

一方、発達心理学においては、言語が思考の形成、深化と密接なかかわりをもつことが数々の先行研究で報告されている。このことから、思考における言語の果たす役割を意識した活動を社会科学習に取り入れることにより、さらなる思考の深化を促すことができるのではないかと考えた。

資料は問題解決的な学習を進めていく際に、理解や思考を深めるもととなる情報を含んでいる。その情報を書き表す、あるいは今までに学んだ知識や経験したことを書き表すことにより、思考を深めるための知識を目に見える状態にし、それらの言語情報を操作しながら思考をすることができると考える。また、文字にして書き表すことは見直しや考え直しなどの振り返りも容易に行うことができ、筋道立てた思考や深い思考を行うことにつながる、と考える。

#### 第2節 学習プログラムの概要

資料を読み解き、考えを深める社会科学習を進めるために、3つの言語化のステップを設定した。

##### 【言語化①—イメージの明確化】

資料に含まれるイメージ的な情報、今まで学んだことや経験した内容などの形がないものを書き表すことにより、思考操作の場に置く。

##### 【言語化②—事象の関連づけ】

書き表した言語情報の意味に着目し、個々の事象を関連づけて、意味まとまりのある集合体（概念化した知識）をつくり出す。

##### 【言語化③—思考の深化】

概念化した知識をもとにして学習内容を総合的にみることにより、社会的事象の背景に迫りながら、筋道立てた深い思考を行う。

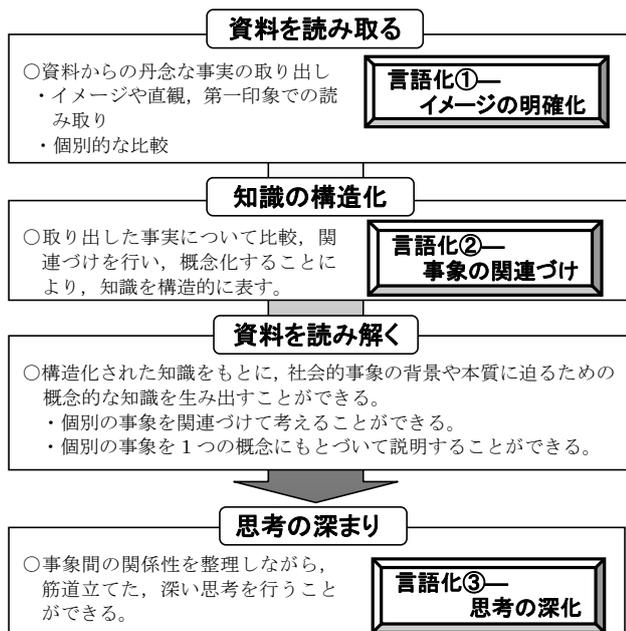


図1 資料を読み解き、考えを深める社会科と言語化  
本研究では、資料から読み取った個々の事象の関連を整理しながら構造的に表し、筋道立てた深い思考を促すために、Thinking Chart (シンキングチャート。以下Tチャート)を開発した。チャート化することにより、事象間の関連を一目で把握できるとともに、事実に基づいた深い思考を行うことができる考え、実践授業に取り入れた。

### 第3章 実践授業での様子

#### 第1節 「水産業のさかんな枕崎市」での実践

【言語化①—イメージの明確化】の活動では、子どもたちは資料から多くの情報を書き出した。  
【言語化②—事象の関連づけ】の活動では、Tチャートの作成を通して、言語情報が書かれた付箋紙を操作しながら、事象間の関連づけをした姿が見られた。  
【言語化③—思考の深化】の活動では、Tチャートをもとに、書き出した言語情報を関連づけ、整理する姿が見られた。



図2 「水産業のさかんな枕崎市」でのTチャート例  
しかし、資料を読み取ることが苦手な子どもへの支援や関連づけの際の支援、思考をさらに深め

るためのより主体的な問題解決的な学習が行えるような学習の流れの必要性、などの課題が明らかになった。

#### 第2節 「自動車をつくる工場」での実践



図3 「自動車をつくる工場」でのTチャート作成場面

資料の読み取りに支援を要する子どもには「学び方ノート」を活用した。また、子どもたちがより実感しながら追究活動を行うことができる

ように、見学活動を取り入れた単元計画を作成し、実践を行った。

【言語化①—イメージの明確化】の活動では、資料からの情報に加え、見学活動で気づいたことをできるだけ多く書き表すことにより、思考を深める際の知識を多く見出すことができた。  
【言語化②—事象の関連づけ】の活動では、Tチャートの作成を通して、子どもたち自ら事象の概念化を行う姿が見られた。  
【言語化③—思考の深化】の活動では、既習内容と関連づけながら、Tチャートをもとに自動車工業に従事する人々の姿に迫りながら思考を深めていた。

#### 第3節 実践授業を終えて～アンケートより～

子どもたちのアンケート調査の結果を分析すると、学習プログラムを通して、社会科が好きになったと回答する子どもの割合が増加した。また、言語化の活動を取り入れた学習を通して、自分の考えを整理することに役立ち、学習内容が分かりやすくなったと感じる子どもの割合が増加した。

### 第4章 研究の成果と課題

#### 第1節 学習プログラムの成果

言語化の活動を取り入れることにより、子どもたちは資料から得た多くの知識を関連づけ、思考を深めることができたと考えられる。また、Tチャートは事象の関連づけを促し、筋道立てた思考を行うことを容易にすることに効果があったと考えられる。また、事象の関連が分かり、学習内容の理解が深まることで、社会科の楽しさを感じた様子も見られた。

#### 第2節 学習プログラムの課題

資料を読み取ることが苦手な子どもに対して、子ども自ら資料を見る視点をつかむことができるような指導や、事象間の関連づけを促すための調べ方や記録方法などを提示するなどの指導の工夫が必要である。